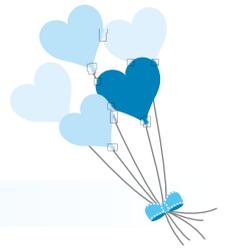


# こころをつなぐ まちづくり

人権シリーズ vol.159



シリーズ「同和問題」⑬

「生まれでよかった、住んでよかったと言えぬまち」

## 日本固有の人権問題

日本には古くから、わが国固有の人権問題である「同和問題（部落差別）」があります。長年、この問題の解決に向けて、国や地方公共団体が取り組んできたことにより、環境整備や生活実態などの面で成果はあがっているものの、社会に潜む差別意識の解消が課題として残されています。結婚問題や身元調査、差別的な発言や落書きなどを根絶しなければなりません。

近年はインターネット掲示板等への差別的な書き込みの増加など、新たな差別問題も生じています。全国的には、地図情報サイト上で私鉄の駅名が「部落」と付け加えられ表記されていたという事件も起きています。サイト管理者の迅速な対応によってすぐに削除されましたが、インターネットに一度拡散されてしまった情報の回収はほぼ不可能です。これらの行為は偏見を助長し、拡大させます。

## 法律は理念を守る器

このような状況のなかで、二〇一六年十二月に「部落差別の解消の推進に関する法律」が公布・施行され、差別解消へ向けた大きな一歩となりました。

部落差別が現存している以上、その解消に取り組むのは行政の変わらぬ責務であり、差別の現状に対する市民の理解が必要です。

## 中身は理念の実践

法の効果は絶大です。しかし、万能ではありません。では、最終的に部落差別をなくす力は何でしょうか。究極のこ

ろ、それは、「差別がいかにも不合理で、愚かなことか」と考える市民社会の成熟度にかかっているでしょう。法はあくまで差別解消の手段であって、法に私たちの思考そのものを革新し得る決定的な力はありません。

二〇一六年三月の「国東市人権意識調査」では、「あなたの子ども、あるいは孫が同和地区出身の人と恋愛をし、その人と結婚したいと言ったら、あなたはどうかされますか」という質問に対して、約三十八・四％の市民が「反対しない」、約二十五・二％の市民が「消極的賛成」、約十一・八％の市民が「やむをえない」と回答しています。

また、約二十・六％の市民が、「わからない」「無回答」と回答しています。

さらに、約三・九％の市民が、「絶対反対」と回答しています。この結果を皆さんは、どのように感じますか。

## 自分自身の問題として

偏見や差別意識を解消するためには、同和問題（部落差別）が人権の根本に関わる重要な問題であるとの認識をしっかりと持ち、正しい知識を身につけ、他人ごとではなく、自分自身の問題として考えていくことが重要です。

「生まれでよかった、住んでよかったと言えるまち」にしていきたいと思います。

（参考文献：公益財団法人 人権教育啓発推進センター発行

二〇一五年変わる日本変わる社会 馬場周一郎 著

文責：教育委員会武蔵分室 田城

市長室から  
こんにちは

## 『方言の暖かみ』

市長日記

99

国東市長 三河明史



梅雨前線が南下し、大雨の予想でしたが、国東地方は大雨にならずに、しかも必要な水は確保できた程度の雨になり、とりあえずは良かったです。でも大雨の所には、お見舞いを申しあげます。

ところで、昨日（6月30日）、安岐町吉松地区で、恒例の「紫陽花祭り<sup>あじさい</sup>」が開かれました。私は、大分県東部振興局長であった平成19年に初めて招かれ、市長になってからも毎年欠かすことなくご招待いただいているのです。

梅雨ですから天気はグズグズですが、道路や斜面に沿って植えられた沢山の紫陽花は雨に映えて実に美しく咲いています。

ここでは色々なアトラクションが面白いのですが、今回は武蔵町のIさんが招かれ、方言で話をするようになっていました。Iさんは、豊後高田市で開催される「方言弁論大会」で最高賞を獲得した方で、彼女のご主人も同じ弁論大会で優勝したことのある方なのです。

Iさんは、私が市報の「市長日記」の6月号で書いた「おどろ」の話やご主人が国東市で開催されたテレビ番組「なんでも鑑定団」に、それこそ「虎の子」の虎の絵の掛け軸が駄目だったときのことなどを、面白おかしく巧みに方言を駆使しながら話すので、会場は爆笑の渦でした。

そして、こう言いました。「方言の方が心がこもつちよるようで、私は方言の方が好きじゃがなあ」そして「『お宅のお孫さんは、綺麗で可愛いですねえ』というのと『あんだ方んびこは本当にえらいなあ』と言うのとどっちが、心がこもつちいること聞こえるかね」と言うのです。

私も、市報6月号に同じようなことを書いているのですが、その通りと思うのです。そして、Iさんは最後に「お金は、使えば無くなる。方言は使わなければ無くなる」と。けだし、名言ですね。そのとおりです。会場にいた若い4代から50代の人は、「そんな方言知らん」とか「聞いたことがない」というような感想を言っていました。

Iさんの言うとおり、方言は生きています。使わなければ、死んでしまいます。

私も、市議会に「方言議会」を開くよう申し込んでみましようか。

※けだし・・・思うに。おそらく。（小学館・新選国語辞典）



## 国東産の焼酎がスペインのコンテストで入賞しました

スペインで開催されたCINVEコンテスト（※）で金賞を受賞した南酒造（安岐町下山口）の南瑠美社長と南さやか専務が7月23日（火）に市役所を訪れ、受賞を報告しました。50以上の蔵元から約200点の日本酒と焼酎が出品された2019年CINVEコンテスト。三河市長は、国東産の焼酎が世界に認められた快挙を讃えました。

今回の受賞により国東産焼酎のブランド向上と、販路の拡大が期待されます。

※2007年より開催されているスペイン政府公認の国際酒類コンテスト。日本酒・焼酎部門が新設された2019年のコンテストが3月31日から4月3日にかけて行われ、南酒造の「喜納屋」が金賞、「とっぱい」が銀賞を受賞しました。

